最後のお願い

皆さん、ご無沙汰しております。お元気でご活躍のことと思います。

三月二七日に、「自由」「共生」「未来への責任」の旗を掲げ、力強く「国民とともに進む」という決意で、「民進党」が結成されました。思えば三九年前の三月二六日に父・江田三郎が、新しい政党で政権交代を目指し、単騎で社会党を離党して、ちょうど四〇年目に入った日でした。そして五月二二日に、その思いの途中に急逝しました。それは私の三六歳の誕生日でした。

私が父の掲げた旗を拾い直し、七月に参議院議員となってから、衆議院議員四期、岡山県知事選挙での敗北を挟み、参議院議員三期の足掛け四十年間、ひたすらに政権交代のある日本の政治を目指して、皆さんに支えられながら無我夢中で働いてきました。この間、細川連立政権では国務大臣・科学技術庁長官、民主党時代では第二七代参議院議長に続いて法務大臣・環境大臣も務めて参りました。この五月二二日で七五歳、ついに後期高齢者入りとなります。

時は流れ、人は老います。元気なうちに絆を繋いでいくことが、高齢者の責任だと思い、私はここで、一切の慰留の声を振り切り、今夏の参議院選挙には出馬せず、新進気鋭の三二歳の黒石健太郎さんに、江田イズムの後継者としての責任を託すこととしました。これまでの一方ならぬご厚情に、心から感謝申し上げます。

しかし戦後七〇年を迎えた今、時代状況は不安定要素に満ち溢れています。ISによるテロの脅威が世界各地に散らばり、近隣では北朝鮮の傍若無人ぶりが目に余ります。憎しみを政治の活力にする動きは、アメリカにまで広がり、日本では安倍政治の暴走です。一人ひとりが大切にされ、安心して生活できる社会の建設と、世界の平和を、改めて不屈の精神で追い求めなければなりません。

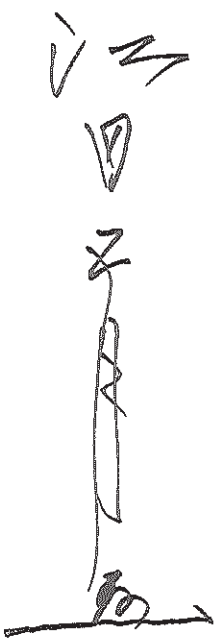
そこでこれまでお支えいただいた皆さんに、最後のお願いです。このような状況だからこそ、父と私とが守り抜いてきた参議院岡山選挙区の議席を、今夏の参院選で自民党に渡すことは許されません。江田イズムの後継者の黒石健太郎さんに、確かに議員バッジを手渡すことが、最後に私に課せられた最大の責任です。ご無理を申し上げて恐縮ですが、「未来への投資」への意味を込めて、「江田五月株」の最後の「増資」に是非ご協力下さい。

このような書面ではなはだ失礼と思いますが、状況をご理解の上、私の選挙の時と同様のご高配を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

敬具

平成二八年四月吉日

参議院議員



なお、五月二二日に岡山市で、江田五月会決起集会を「株主総会」のかたちで開催する企画を進めています。ご参加いただける方は、事務所までご一報下さい。